病児保育協議会
NEWS
第78号
2015年（平成27年）5月1日
〔発行人〕 会長 稲見 誠
〔発 行〕一般社団法人 全国病児保育協議会
〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-10-7 いなみ小児科内
TEL.03-3421-4885 FAX.03-3411-4936
一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ http://www.byoujihoiku.net/

調査研究･インシデント管理委員会の活動と目的

調査研究・インシデント管理委員会委員長
病児保育室「きりん」（青森県）　荒 井 宏 治

調査研究・インシデント管理委員会の活動について紹介し、その目的を説明します。本委員会は、協議会加盟施設の実績や実態の調査と各施設から報告されたインシデント・アクシデントの集積や分析を主な活動としています。

平成27年４月から子ども・子育て関連３法に基づく、子ども・子育て新制度が施行されます。この新制度には社会全体で子どもを健全に育てるための様々な施策が含まれていますが、その中で病児・病後児保育事業は、市町村が地域の実情に応じて実施する「地域子ども・子育て支援事業」に位置づけられています。そのため自治体によっては、地域住民への子育て支援や就業支援のサービスとして助成金を交付して、本事業を積極的に進めていくことが考えられます。これまで病児・病後児保育の社会的浸透と信用は、主に加盟施設の努力と良識の積み重ねで確立されてきました。新制度の発布による本事業への様々な形の参入によって、事業全体が拡大・多様化することは悪いことではありませんが、中には合理化を謀り、保育の質や安全性が損なわれるようなことがあると、利用者が不利益を被ることになります。そこで協議会は、病児・病後児保育が利用者や運営者にとって安心と安全が担保され、信頼が維持されるように、病児・病後児保育のあり方の提案や質的改善のための方策、政府からの情報などを提供します。その中で本委員会は、実績調査を毎年実施して、主に稼働状況から病児保育の社会的ニーズを調査します。また数年おきの実態調査では各施設の運営状況や抱えている問題点を明らかにします。これらのデータは、病児・病後児保育事業が改善されるように協議会が行政に働きかけるための重要な資料にもなります。

平成25年の厚生労働省の報告によると、保育所での重大な事故は162件で、その中で死亡事故は19件、うち16件は０歳と１歳、そして13件は睡眠中でした。病児・病後児保育では、病気に罹患しやすい２歳未満の子を預かることが多く、体調は決して良好ではありません。そのような理由もあり、協議会は預かり児の事故の防止のための啓蒙活動を進めてきました。その取り組みの一つとして病児保育施設向けインシデント管理システム（mims）を開発し、2011年から運用しています。重大な事故を防止するためには、些細なことでもインシデントを正確に記録して、対策をしておくことが必要ですが、同じような預かり児に対応している施設間で情報を共有し、発生する可能性があるインシデントに対応しておくことも重要です。こうした目的にmimsは沿うもので、導入施設を対象にしたアンケートでは大多数の施設で、mimsが事故防止に有用であると回答しておりました。ただ以前、本委員会が行った調査によると、インシデント報告書を整備している施設は76％で、約４分の１の施設は報告書がありませんでした。幸いこれまで、加盟施設での重大な事故はありません。これは加盟施設個々の注意と努力によるものであると推測されますが、本事業の預かり児の特性を鑑みると薄氷を踏むようなものであったこと、そしてこれからもそうであることは想像に難くありません。リスクマネジメント用語の「ヒューマンエラー」とは、「人間はだれでも間違いを起こすもの」であり、それならば、事故を起こさないための、そして事故を起こしたとしても被害を最小にするためのシステム作りが大切です。本委員会はmimsと手書きの報告書の２本立てでインシデントを収集しています。すでにmimsによって540のインシデントが集積、共有化され、事故防止のために役立てられています。これらのインシデントデータは、病児保育協議会ニュース、学会機関誌（病児保育研究）、研究大会等で報告します。

調査研究・インシデント管理委員会の活動や目的にご理解をいただき、今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

保育園型プロジェクトのいまとこれから

砂原保育園 園長
病後児保育室 とまと　髙 橋 広 美

『「またあしたね」この何気ない日常のやり取りが、本当にうれしい…。』

保育園で交わされる何気ない挨拶も、病児保育に在っては大切な挨拶だということを教えてくれたのはクリニックで勤務を始めた新人保育士でした。

『病児保育室での「またあしたね」」は、まだ体調が回復していないので明日も病児保育室に来るということ、だから「またあしたね」と言って良いものなのだろうか、』と悩む姿に、病後児保育とは違う保育士の悩みを感じました。

平成25年度厚生労働科学研究補助金による「病児・病後児保育の実態把握と質向上に関する研究」によると、全国の病児病後児保育室717か所のうち、保育所併設型で病後児保育を行っている施設は250か所あります。そのうち、全国病児保育協議会に加盟している施設数は、18%にとどまっています。このような状況を鑑み、全国の病後児保育施設の協議会加入が促進され質が高められるようにと、４年前から保育園型ＰＴが設置されました。

現在保育園型ＰＴは東京近郊の７施設の園長が中心になり、年３回ほど集まり会議を開催しています。活動は主に全国大会での保育園ＰＴ分科会実施のための検討ですが、内容は多義に渡り待機児の対応、子ども子育て支援新制度、認定こども園など最近の情報についても意見交換を行っています。またこの２年は「連携」をテーマに、全国の病後児保育室の保育士や看護師が元気になれるように、さらには全国に仲間が広がるようにとの思いを込めて、分科会の準備を進めています。

分科会でのテーマ設定や、実践発表者の決定には時間がかかり骨が折れる準備です。しかし参加したみなさんが少しでも大会に参加して良かったと思ってもらえることが、次のステップに繋がります。活動の仲間を増やし楽しみながら取り組める様に、自己紹介カードの交換やグループ討議を織り交ぜながら会を進め、少しずつ広がりが見え始めてきたところです。

さらに、冒頭に紹介いたしました新人保育士のように、互いの病児・病後児保育施設を知ることは、埋もれていた感性を再び思い起こす事であり、課題解決の答えを見つけ出せる方法でもあるように思いました。

病児と病後児施設の連携が強まれば保護者の就労支援はもちろんのこと、子どもの育ちへの支援も手厚くなります。

私は病後児保育ですので、クリニック併設の病児保育の工夫や改善、どのような課題があるのかわかりません。逆に、病児保育のドクターや保育士は、保育園併設の病後児保育の実践を知る機会はあまりないと思います。今後は、お互いを知りながら互いに関わっていくことができるように、互いの積極的な情報の発信も必要になっていくのではないかと思います。

保育園併設の病後児保育には、保育業務に加え病児病後児のための保育看護の知識がより求められますが、これを特別な知識や技能と考えず、産休明け保育や障がい児保育、乳児保育に取り込み、日常の保育に生かされてくると職員の保育のスキルが高まり、園全体の保育の質も向上するに違いありません。

病後児保育に取り組んでいるみなさん、私たちと一緒に活動しませんか。全国にメンバーが散らばり、ネットワークが広がれば働く仲間も増えていきます。魅力的で、やりがいのある病児病後児保育がますます充実され、地域のニーズにも対応しながら、なくてはならない施設にますます育っていくようにと願っています。

新潟県支部研修会報告

11月17日、新潟市で病児保育協議会新潟県支部研修会を開催しました。他の地域同様、行政による積極的な病児保育施設の設置に伴い、県内の施設数は増加していますが、そこで行われる病児保育の「質」については助成する側の行政も関与せず、病児保育の実施施設に任されている状態です。このような状況の中で、施設間交流を図ることは有用と考え、協議会加盟の有無にかかわらず、県内で行政が把握している各施設に案内を出し参加を募りました。県内各地から50名の参加を得て、新潟市医師会講堂にて開催しました。基礎研修テキスト（青本）を標準テキストとして使用し、協議会未加入の参加者には購入いただき、今後の実践に役立てていただけるようにしました。ご多忙の中、研修委員会委員長の帆足暁子先生に新潟までいらしていただき、ご講演いただきました。講演の後、県内では早くから病児保育を実施している新潟市の現状について報告･話題提供し、その後、参加者間での意見交換を行いました。

参加者におこなったアンケートでは、参加者の内訳は、医師４名、保育士29名、看護師７名、その他10名でした。施設の分類は、医療機関併設型（個人医院）28名、医療機関併設型（病院）12名、保育所併設型４名、単独型１名でした。中には病児保育施設のまだ少ない山形からの参加者もおられました。病児保育協議会の認知度については、35名が知っていたと答えていましたが、10名の方は知らなかったと答えており、認知度の向上に努めなくてはと思われました。

自由に記載してもらった内容には、帆足先生の講話への賞賛が多くみられました。そのほか、保護者への対応が重要であることを再確認した、他施設の話を聞けて良かった、身近な場所での開催は参加しやすい、などの感想がありました。要望として、施設間討議を施設状況の似たようなグループで行いたい、ワークショップの様な形式での研修がのぞましい、などがあげられました。

新潟では、まだまだ黎明期の地域間連携ですが、各施設長の思惑はともかく、現場の人たちには、こういった情報提供が有用であることを確認できた会合でした。

病児保育室よいこのもり（新潟市）施設長　**佐藤　勇**

大阪支部定例会報告

第24回大阪支部定例会は、平成27年３月７日（土）午後２時から大阪府門真市のルミエールホールで開催いたしました。

最初に、「予防接種の話題」と題して約１時間の講演をさせていただきました。予防接種の必要性や実際の接種方法など基本的な内容の後に、麻疹や先天性風疹症候群の話題、ヒブ・肺炎球菌の定期化により重症感染症が減少したこと、日本脳炎、B型肝炎、子宮頸がんワクチンの現状について、そして新しいインフルエンザワクチンの開発など、現在話題となっているワクチンやそれに関係する疾患について解説をさせていただきました。講演後には多くの質問をいただき、参加いただいた皆さんが予防接種に関心が高いことがうかがわれました。

引き続いてグループ討論を行いました。今回は入室時の「問診票」にテーマを絞り、各施設から現在使用している問診票を持参していただき検討することを試みました。色々な問診票を目の前に並べてみると新しい発見もあり、各施設での工夫や考えを学ぶことができて大変勉強になりました。しかしながら討論時間が限られたこともあり、なかなか全ての問診票について検討できなく参加者からも少し残念

だったというご意見もあった点は反省すべきと思われます。

しかし各施設の工夫された問診票は参加者に刺激を与えたようで、問診票を写真で撮っている方々も多く見られ、テーマとしては良かったのではないかと思っています。

当日は生憎の雨でしたが、多くの方々にご参加いただきました。事前登録の段階で会場収容人数を超えてしまい、以降の参加をお断りしなくてはいけない状況となったことは企画側として大変申し訳なく思っています。ご参加いただきました皆様、充分な「おもてなし」ができませんでしたが本当に有り難うございました。

病児保育室ティーグル　辰谷由有（保育士）
松下　享（医師）

第１回静岡県支部（研修・交流）会報告

平成27年２月７日土曜日午後に、静岡県富士市の病児保育室おんぷ内で第１回静岡県支部会を行いました。保育士６名、看護師３名、薬剤師１名、医師２名、計12名の参加でした。

プログラムは①自己紹介とアイスブレーキング、②各施設の工夫（おんぷ、さくらんぼルーム15分ずつ）、③ワークショップ「これからの病児保育を考える～どんな子育てステーションにしたいか」、④講演「保育室で乳幼児突然死症候群を予防するために」担当：北西史直、「食物アレルギーと保育室での対応」担当：櫻町俊二先生、⑤施設見学、懇親会でした。

①３年前に一度交流会を行ったときのメンバーが大半で、久しぶりの再会を喜び、自己紹介から盛り上がりました。

②各施設の勤務体制や保育環境などは違いもありますが、それぞれの施設の取り組みを意見交換する中で、気づきがあり、勉強になりました。お互いが取り入れたい工夫が見つかったかと思います。

③子ども・子育て支援新制度がスタートする中で、

今後病児保育は地域から何を求められるのか、ＫＪ法を用いてワークショップを行いました。病児保育をもっとアピールする、保護者へのアドバイス、情報発信、障がい児へのケア、すぐでも、いつでも使える体制、行政と連携するなどの意見が出ました。

④参加施設の医師がミニレクチャを行いました。共通していたのは、リスク管理です。事故を起こさない、起きても最小限にする対策を日頃からしていかなければならないと認識しました。

⑤会場が診療所の待合室であったことより、直ちに保育室に移動し、短時間ですが見学を行い、みんなで夕食を食べ、終了となりました。

参加施設は実質２つで、こじんまりとした会になりましたが、参加した職員は、交流を深め、学びもあり、満足感はあったと思います。できれば１年に１回はこのような会を開きたいと思っておりますが、次回はもっと多くの施設、職員が参加できるよう努力したいと思います。

全国病児保育協議会静岡県支部長
病児保育室おんぷ　北西史直

第8回全国病児保育協議会鹿児島県支部総会・担当者交流会報告

平成26年11月16日、鹿児島市城西公民館において、第８回全国病児保育協議会鹿児島県支部総会が開催されました。会員19施設中、参加18施設、医師、看護師、保育士、その他職種計61名が参加しました。

事業報告、来年度の事業計画案等の審議後、『病児保育の快適な運営に向けて』と題し、全国病児保

育協議会副会長・感染症対策委員長の大川洋二先生にご講演いただきました。第１部病児保育利用率向上への試み、第２部保育士・看護師のための何故だろう感染症の知識～安全安心の確保と稼働率の向上を目指して～という２部仕立てで、完璧な感染予防を求めるあまり運営に苦しむのではなく、グリーンブックに則った感染患児の受け入れ方法で快適な運営を目指そうというお話は、参加者からも大好評でした。

午後からは、第８回担当者交流会が開催され、看護師・保育士計49名が参加しました。初めに、『病

児保育専門士資格認定試験を受験して』と題して、まつだこどもクリニック保育士の長谷加代子さんより報告があり、その後、日頃病児保育現場で困っていることや、工夫していることなどをグループで話し合い、活発な討議となりました。最後には、会場近くの病児保育施設「あまやどり」の見学をさせていただきました。

今後も、病児保育鹿児島県支部内で連携を深め、病児保育の質向上を目指していきたいと思います。

池田病院チックタック童夢館　**梛　木　さゆり**

加盟施設紹介

施設名　医療法人社団 横田小児科医院　**病児保育室「JAMBO!」**

所在地　神奈川県小田原市北ノ窪 515-３（横田小児科医院隣）
TEL　0465-34-0666

記入者名　土屋理恵

開設日　平成 26 年７月２日

定　員　６名

スタッフ　看護師１名
保育士　常　勤１名
非常勤５名

小田原市内で初となる病児保育室「ＪＡＭＢＯ！」は「頑張る保護者には安心を、そして病気の子どもには元気を」という院長の想いのもと、平成 26 年７月に開設しました。「ＪＡＭＢＯ！」はアフリカの言葉（スワヒリ語）で「こんにちは」という意味を持ち、それに合わせ室内の壁紙や玩具等は「サファリ」をイメージしました。入室した子ども達は隣接している小児科にて診察をする為、医院スタッフと連携を取り合って保育しています。体調が悪く慣れない環境で朝は泣いて保護者の方と別れても、帰りは安心して笑顔でお返しできるよう努めています。子育て中の保護者の方が困った時に、一番に思い出してもらえるような病児保育室を目指していきたいです。

事前登録はお済みですか？

第25回

全国病児保育研究大会 inくまもと

病児保育の輪を広げよう

～子どもも親もよか笑顔～

開催期間

平成27年
7月19日(日)・20日(月・祝)

会　場

くまもと森都心プラザ
ホテルニューオータニ熊本

ホームページ ホームページ:http://byouji2015.umin.jp

◆ 第25回 全国病児保育研究大会 in 熊本 広報の部屋 ◆

「病児保育川柳」大募集！

★ 季語は必要ありません。五七五にこだわらず字余り大歓迎 ★

みなさんの日ごろの喜び、感動…ですよね!?などなど、オモシロ楽しく（マジ!?）熊本で全国に伝えましょう♪優秀賞、その他笑えない(*_*)作品など各賞で、開催地 熊本の名産品など豪華賞品をプレゼント！皆さまふるってご応募ください♪

〔応募方法〕

◎ＦＡＸの場合
【TEL＆FAX　06-6730-5828】
送り先：病児保育室こひつじ 岸本宛

◎メールの場合
件名は「病児保育川柳」
応募用紙の内容をメール本文に書いて送信してください。
【E-mail:kohituji@fujimoto-clinic.org】

〔締め切り〕

2015年５月29日（金）

〔問い合わせ〕

TEL、FAX、メールでお問い合せください。

◎病児保育室こひつじ 岸本まで
TEL＆FAX　06-6730-5828
E-mail:kohituji@fujimoto-clinic.org

編集後記

今号は巻頭にリスクマネジメントへの啓発が示され、他には保育園型プロジェクトの活動や各支部の研修・活動報告と盛りだくさんです。皆様からの投稿をお待ちしています。

（広報委員長　藤本　保）

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会

担当：藤　本　　保

〒870-0943 大分市大字片島83-7
大分こども病院
FAX.097-568-2970
E-mail:byouji@oita-kodomo.jp

Printed by AIKOHA